

地球観測将来構想小委員会第4回会合 議事録

日時：2019年12月20日10:00-12:00

場所：東京大学理学部1号館105号教室

出席者：中村尚、高薮縁、佐藤薫、中島映至、早坂忠裕、江淵直人、岩崎晃、沖理子、金谷有剛、小池真、高橋暢宏、中島孝、中島英彰、樋口篤志、本多嘉明、横田達也（敬称略 名簿順）

以上16名

議題：

1. 議事次第のとりまとめについて
2. 提言原稿について
3. 政府の動向について
4. その他

議事内容：

1. 議事次第のとりまとめについて（委員長・副委員長・幹事）に一任された。
2. 提案原稿について

22日までに提言原稿をチェックいただきたい。23日正午には提出したい。12月24日に地球惑星圏分科会にかける。

各委員への依頼事項

- ✓ 用語、脚注、参考文献を追加する。別ファイルで提出する。
- ✓ 人工衛星やデータ配布のURLは示さなくて良い。
- ✓ 衛星名やセンサ名はフル表記をつけるようにする。

提言フォーマットの確認（フォーマット（行間）を揃える）

- ✓ 2ページ 40字 x 38行 12ポイント

提言の要旨（1節）

- ✓ 2017年の提言も参考文献とする。（URLを示す）
- ✓ UNISDRで、20年間に43兆円の経済損失とあるが、スターンレポートのGDP比との整合性をチェックしたスターンレポートは、経済影響を見積もったものであるため被害額よりは大きくなる。

提言の要旨（3.(1)節）

- ✓ 「定量的に理解する」→「定量的に理解し、対策を講ずる必要がある」
- ✓ 「水・エネルギー・炭素循環」→「水・エネルギー循環、植生等」
- ✓ 「特に」→「しかしながら」

提言の要旨（3.(2)節）

- ✓ 「宇宙民生部会」→「宇宙民生利用部会」
- ✓ 「また、国土交通省・・・」→「同時に、国土交通省・・・」

提言の要旨 (3.2)節)

- ✓ 「具体化を検討すべき」→「具体化を図るべき」
- ✓ 「取り入れながら、オープンサイエンス研究データの共有の推進を検討する」→「取り入れ、社会に開かれたデータ共有をさらに推進する」

提言の要旨 (3.3)節)

- ✓ オープンデータ、社会との関係、データ共有、インフラ、について、議論がなされ、要旨が改訂された。

提言の要旨 (3.4)節)

- ✓ 「航空機や気球による・・・可能となるだろう」の記述は、前回の提言において具体性を求められたこと、また「航空機観測」を応援する意味で記述していた。→「衛星観測との連携という書き振りにする。

提言の参考資料

- ✓ 経済損失 UNISDR
- ✓ 組織図
- ✓ TF の図、中島先生作成の図を TF から引用
- ✓ 工程表の最新版 (どの時点のものが良いか)

提言の参考文献

- ✓ 令和元年 6 月 4 日の工程表改定に向けた重点事項

3. 政府の動向について

- ✓ 民生部会での内閣府とのやりとりについて、現行工程表の立て付け上は、AMSR 3等、「11. その他のリモートセンシング衛星開発・センサ技術高度化」に記載された衛星・センサ等の利用の在り方についての記載に適切な箇所がないのが現状であるとの回答があった (岩崎)。
- ✓ 文科省の「地球観測推進部会」において、工程表の「その他のリモートセンシング」を気候変動として扱うべき点を議論、部会長を初めとした賛同を得た (高薮)。

4. その他

次回 (第 5 回会合) 3 月 @東大理学部 1 号館 105 号教室 (予定)

議事:

1. 提言書の検討
2. 議事要旨について